

第 3 回 保険の歴史－欧州における保険事業の成立

現在の保険システムは、欧州において歴史的に形成された近代的な保険システムである。

第 3 回から第 6 回まで、海上保険、火災保険、生命保険と順次近代的な保険システムが成立し展開していく流れを取り上げる。この流れの中で、現在の保険システムを成り立たせている、重要な要素が出現している。第 3 回は、海上保険とロイズを取り上げて、今日からみて保険の仕組みの原型・重要な要素が現れていることを理解する。

1. 冒険貸借から海上保険へ
2. 海上保険事業に必要な機能・専門職が揃ったロイズの形成と保険事業の原型
3. 発展問題

キーワード 海上保険、リスク負担とリスク移転、保険引受能力、資本の集積、アンダーライター、ブローカー

1. 冒険貸借から海上保険へ

1.1 海上危険を対象とする海上保険

海上保険は、沈没、座礁、火災、衝突等の事故による、船舶・積荷の損害を填補する保険

保険契約の期間

航海する期間が原則：出港して仕向け港に到着するまで

2 種類の海上保険

船舶対象の船舶保険と積荷対象の貨物保険



(出典) http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:St%C3%B6wer_Titanic.jpg

Q なぜ船舶保険と貨物保険の二つがあるのか？

1.2 中世地中海の海運の発展と海上危険

海運は、陸運より便益が多いが、海難の危険が隣り合わせのハイリスク・ハイリターンの事業

中世地中海の海運の発展：

海運の利点・条件；陸運との比較

- ・大規模・低コスト、
- ・関税・領主の干渉回避

海運事業の条件

- ・技術集積・造船運行技術（現在より未発達）、
- 投資資本の必要、

ガレー船（漕ぎ手+帆船）

危険な航海への対処策：

武装船員 船団運航



(出典) http://en.wikipedia.org/wiki/File:Greek_Galleys.jpg

1.3 海上危険に対処する冒険貸借

冒険貸借：無事仕向け港到着の場合と海難事故発生の場合で返済が違う貸借契約

1.3 (1) 通常の貸借契約

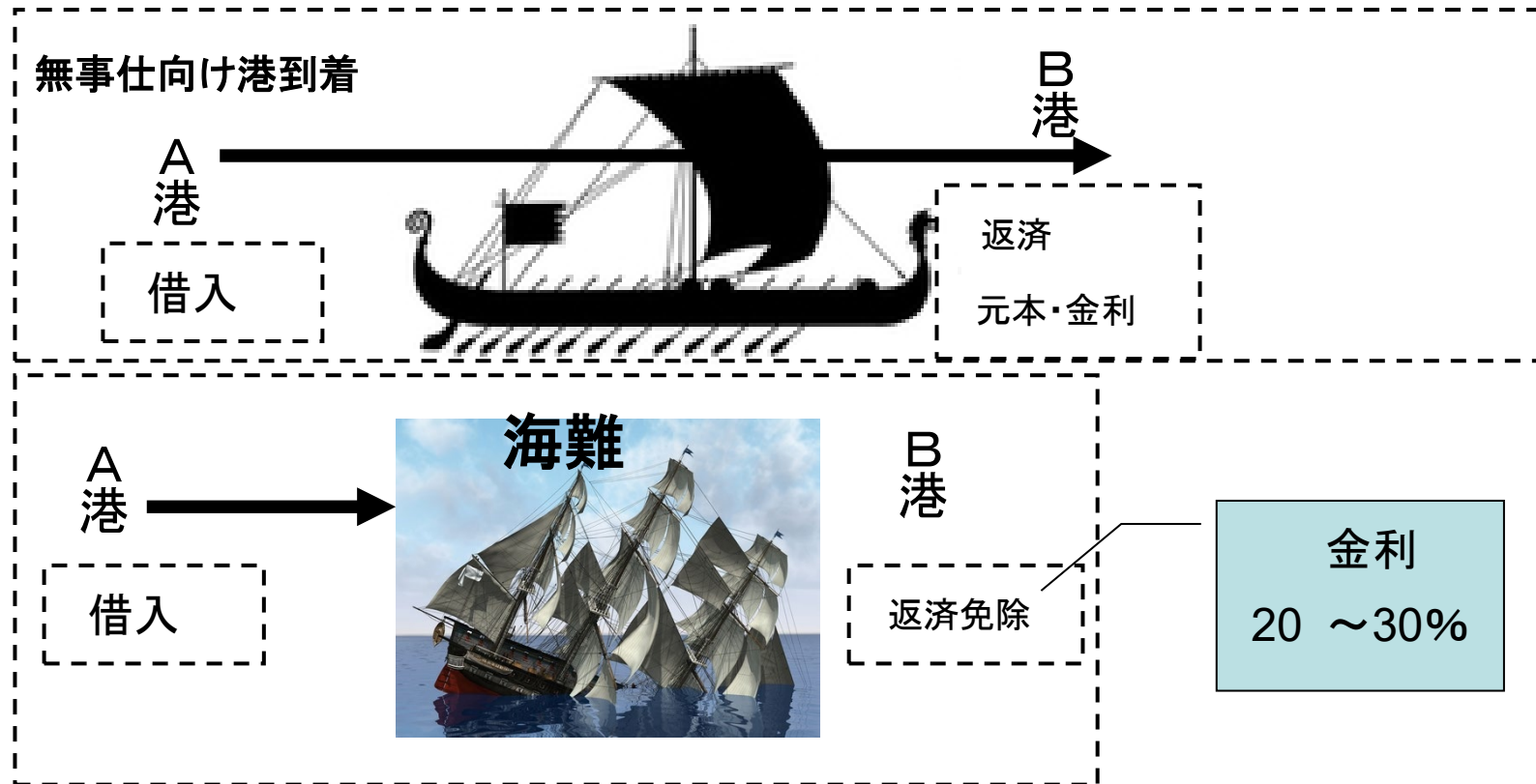
航海業者(船主・荷主)が、港と港の間を運搬される荷物または船舶を担保にして、金融業者から運送費等を借入する契約

- ・船が無事に仕向け港に到着すれば、借金は、元本と利息と共に返済する→通常の融資契約（貸付契約）
- ・海上危険が現実化（海難）した場合でも、通常の融資契約（貸付契約）では、借金は元本と利息と共に返済する

1.3 (2) 冒険貸借

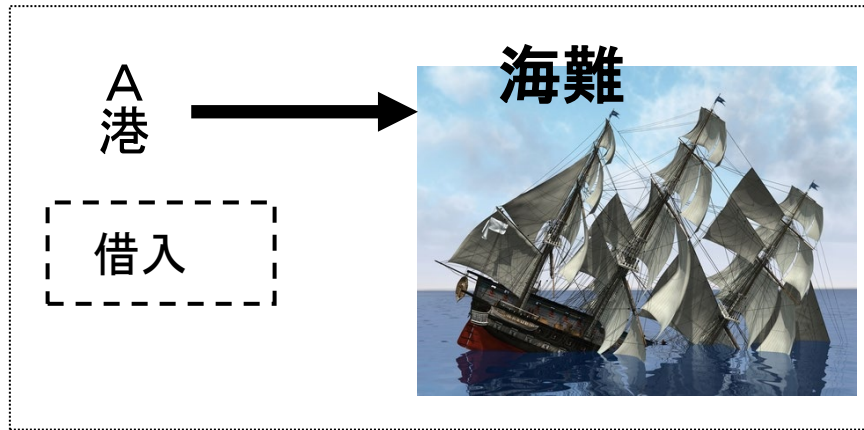
- ・船が沈没・火災、海賊、戦争などの**偶然な事故に遭遇して**、船舶が全損となったら、**借金の返済は免除**される

(沈没・火災、海賊などによって損害が起きると、貸主である金融業者は返済されるはずの金銭が入らない)



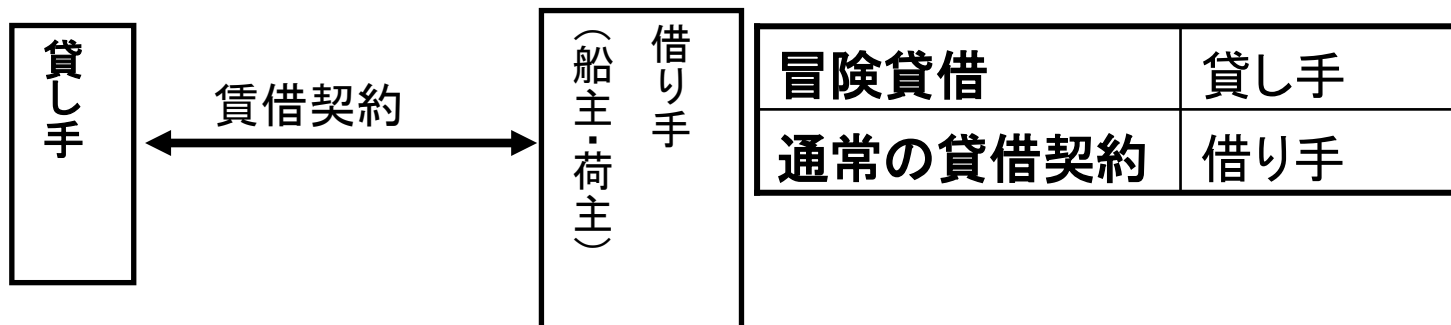
1.4 .冒険貸借と通常の貸借契約；リスクの負担者

海運業者(借り手)の損害負担・リスクが金融業者(貸し手)に移転



冒険貸借	返済免除
通常の貸借契約	返済

船舶・積荷の損害の負担者・海難事故のリスクの負担者は？



1.5 .冒険貸借から海上保険へ

冒険貸借は、資金提供の貸借契約とリスク移転の保険契約に分かれていった。

イタリアでの海上保険の発展

11 世紀ヴェネチア 冒険貸借

→14 世紀ジェノヴァ 世界最古の海上保険証券

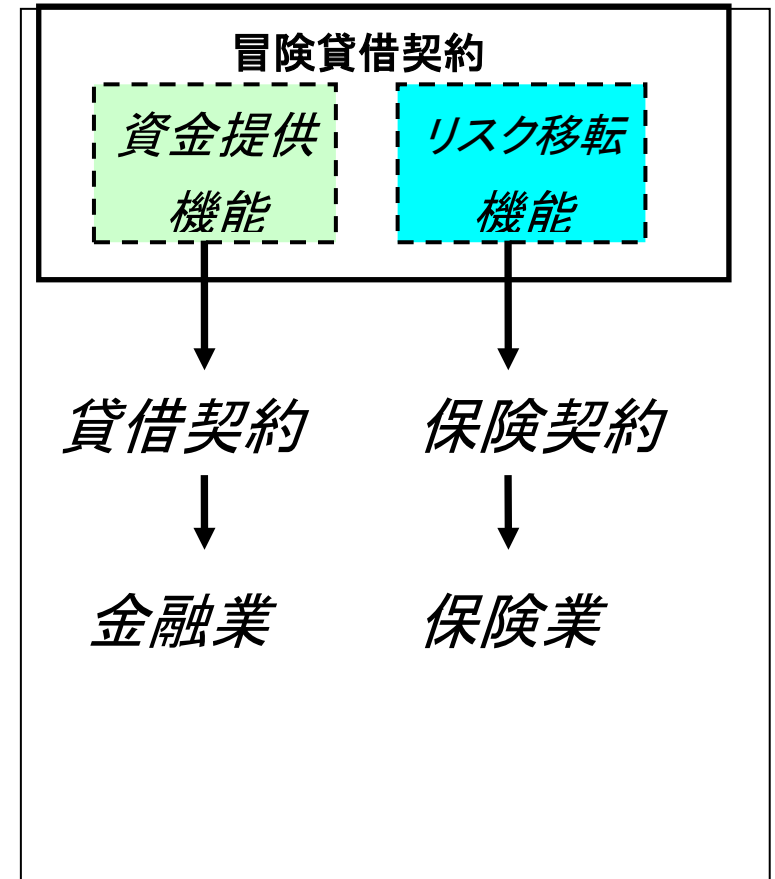
保険条例が定められ、海上保険契約が進展

背景：・13 世紀ローマ法王による利息禁止令；

何物も求めずして互いに与えよとの教会の教えに反する違法な行為を禁止

→無償の冒険貸借など仮装した契約などが盛んになる

・借金しなくも済む航海業者などの出現



2. 海上保険事業に必要な機能・専門職が揃ったロイズの形成と保険事業の原型

2.1 現在のロイズとその始まり

ロイズは、保険会社ではなく保険市場で、始まりはコーヒーハウスだった。

現在のロイズ：保険市場

- ・ ロイズ保険市場（The Lloyd's market）またはロイズ組合と呼ばれる世界の保険を取引する市場
- ・ 当初は海上保険だったが、今日では航空保険、自然大災害保険などの特殊な保険も扱うようになった。

ロイズの始まり：コーヒーハウス

- ・ 1688 年、 Edward Lloyd がコーヒーハウスである Lloyd's Coffee House を、船舶が停泊する波止場の近くに開店。 一日中営業しており、船員、船舶の建造・修理をする業者など関係者が集う店になった。
 - ・ 1696 年 Lloyd は、Lloyd's List を創刊し、船舶の入港出港、海難事故などの情報を提供した。
 - ・ 顧客は、コーヒーを飲む毎に支払をするのではなく、小銭 1 ペニー Penny 程度を支払って店に入って、コーヒーを飲み、他の客と情報交換をし、パンフレット・情報誌を読んだ。
- コーヒーハウスは情報交換の場で有益な情報が入手できる場所であり、Penny University と呼ばれた。

ロイズの建物

Lloyd's of London Insurance Market and Offices ロイズ オブ ロンドン インシュランス マーケット アンド オフィス



ロンドンの金融街であるシティに位置する。
有名な建築家リチャード ロジャースの設計。ガラス張りのビル。配管は外に出ており、メタリックな階段がビルの外についている：1986年エリザベス女王が臨席のもと新ビルディングの開所式を挙



Leadenhall Market ロイズのビルに隣接する、ガラスと鉄のアーケードがあるマーケット。14世紀に生鮮食糧品市場として栄え、今は日用品・雑貨も扱っている。

2.2 ロイズ生成の背景

海運事業の隆盛による海上保険需要の拡大に対応する仕組みが必要だった

ーイギリスにおける海運事業の隆盛と海上保険の需要拡大

- ・ 17 世紀になると、貿易の中心がイタリアからオランダ・イギリスへ
- ・ 当時イギリスは、オランダと貿易の覇権争いをしていた
- ・ ロンドンでは、毎日荷物が入港・出港されていたほど活況だった→海上保険の需要は拡大

昔より大型の船舶を引受ける仕組みが必要、巨大な損害が生じるリスクでも引受できるようにする必要、

巨大リスクを引き受ける仕組みが必要になっていた。

海運に関する情報は有益→情報が集まるコーヒーハウスの役割は重要

2.3 巨額の保険を引き受けるロイズ保険市場の仕組み

巨額の保険を引き受けるには、巨額の資金が必要（保険引受能力を確保する仕組み）

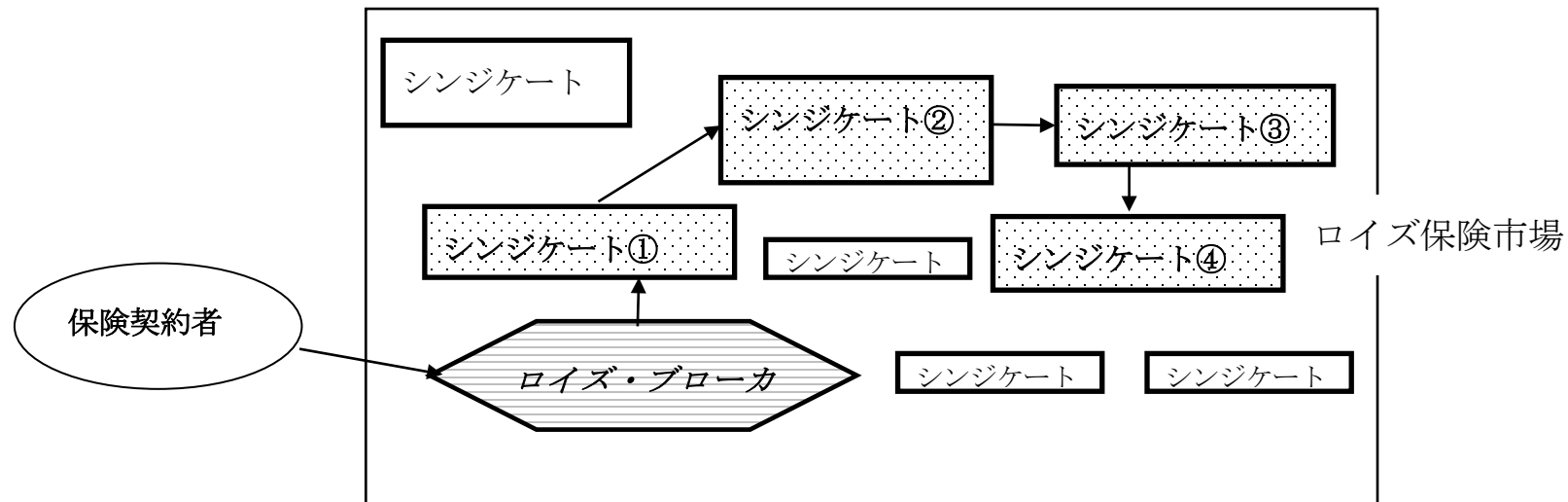
2.3.(1) 巨額の保険を引き受けるために多額の資金を集める仕組み

多数のシンジケートが分担して巨額の保険を引き受ける仕組みが生まれた

資本提供者からの保険引受のための資本をプールしている：シンジケート Syndicate

世界の保険契約者からロイズ保険市場へ保険契約を仲介するロイズ・ブローカーLloyd's Broker

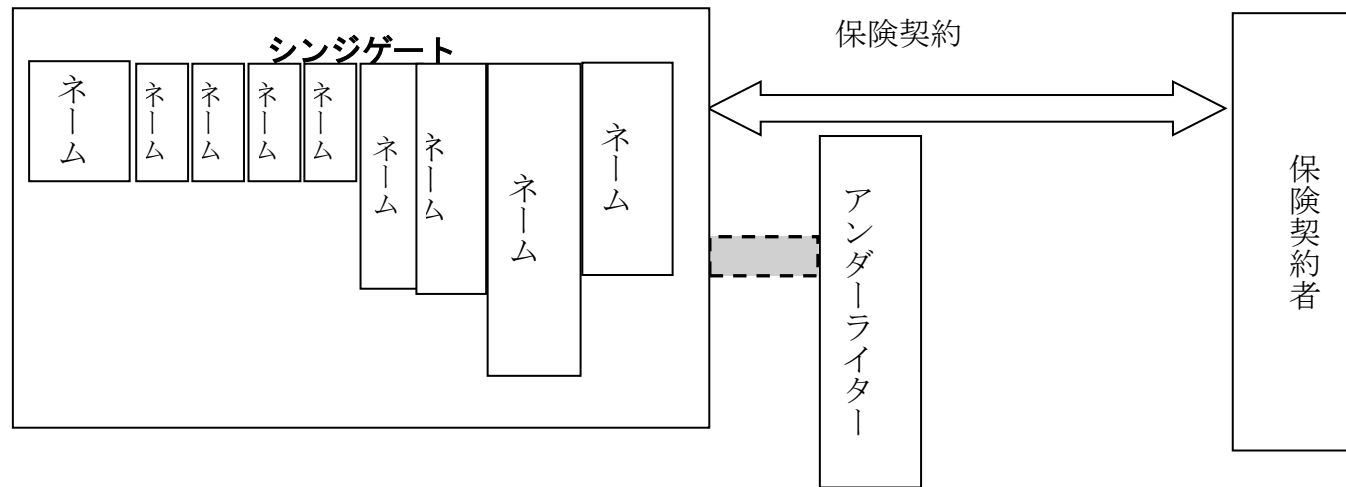
ブローカーは、幾つものシンジケートと交渉して、巨額の保険引受を実現する



2.3.(2) 投資家を集め、配当をする仕組みと資本調達

リスクを引き受けるための資本を集めたシンジケートへ資本提供をするネームという仕組み、
 保険引受リスクの負担に対して配当が支払われる仕組み

- ・ ネームは、資本を提供する。個々のネームは独立している ←シンジケートは会社ではない、投資組合に近い存在



- ・ 最終的な保険金支払責任は、「ネーム」と呼ばれる個人会員が負う。出資した金額以上に保険金支払責任を負う
 → 責任の限度がない、無限責任制度 → 破産の可能性。

かつてのロイズの無限責任制度 (Unlimited Liability) :「最後のカフス・ボタンまたはイヤリングまで」という挿話

かつてのロイズの無限責任制度とは、保険金支払総額が収受した保険料総額を遙かに超える事態になった場合、ネームは出資した資金を提供するだけでなく、個人の財産全部を提供する仕組みである。

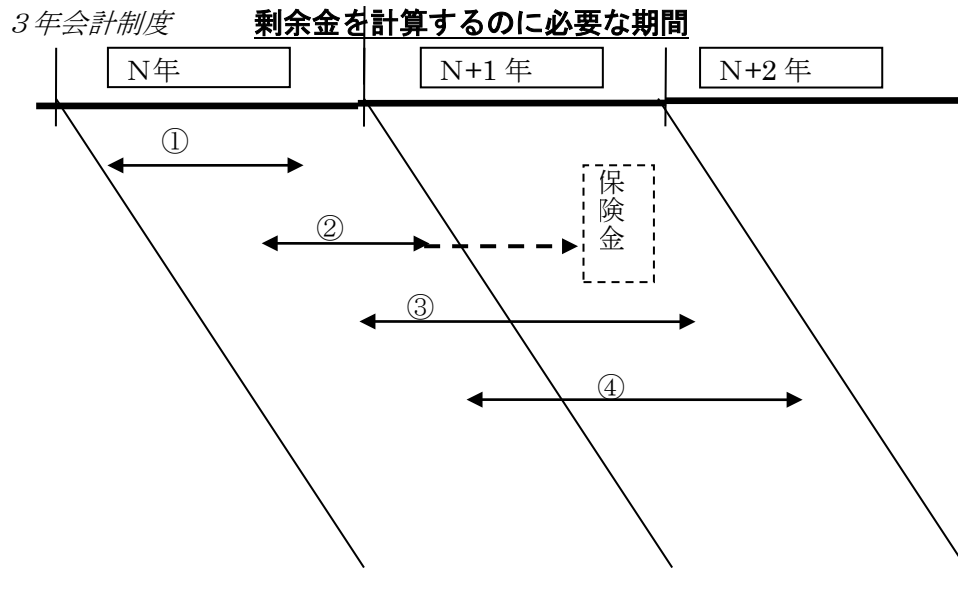
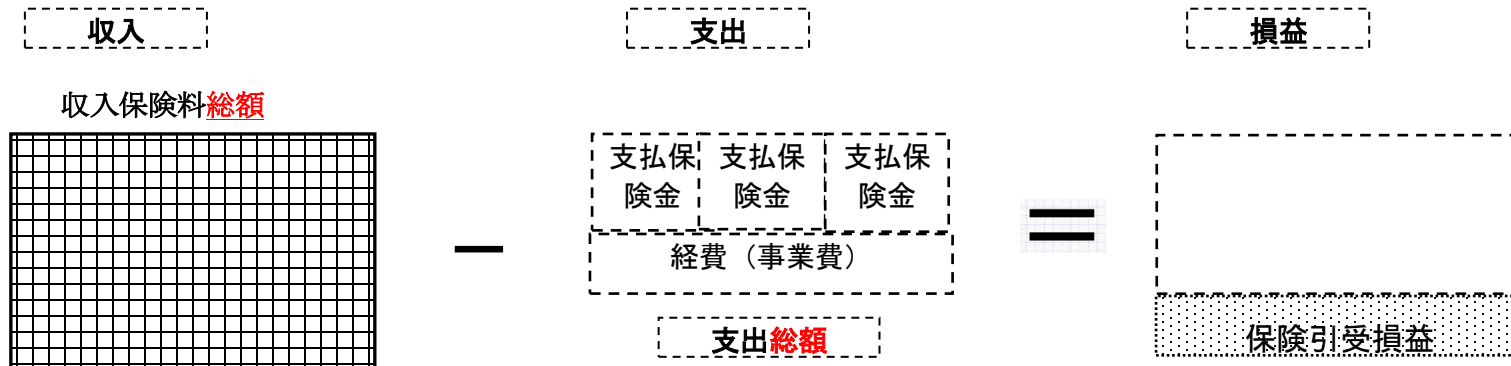
保険支払能力という観点から見ると、シンジケートは集めた資金総額だけ資本金のように用いるが、保険金支払総額が巨大になり、集めた資金だけでは不足するときにはシンジケートはネーム個人の財産も見えない資本として使用することができ、分厚い資本準備がなされていると理解することができる。



個人財産の提供は、男性が身につける高級なカフス・ボタンや女性の宝石を用いたイヤリングなどの装飾品も及んだという挿話がある。「最後のカフス・ボタンまたはイヤリングまで」と表現される挿話である。

— 資本提供者への利益の分配

多数の出資から少数の偶然な事故へ保険金を支払い、残額が剰余金になる構造、引受年度毎の計算

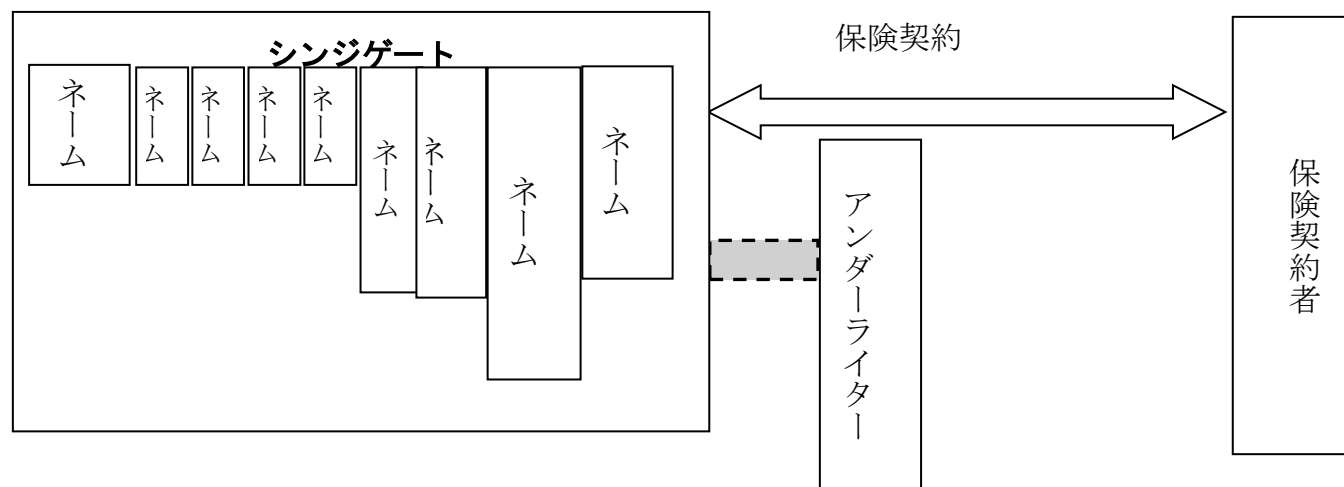


2.4 資本提供に対する配当実現のために保険引受利益を実現する専門職

リスクを引き受けるか否か、引き受ける条件を決めるアンダーライター

保険引受の専門職：アンダーライター

シンジケートに属する専門的なアンダーライターが、利益があがるように、保険契約の引受可否、引受条件・引受金額を決定



3. 発展問題

巨額の保険を引き受けるには、巨額の資本が必要であり、資本を集めて配当する仕組みを学んだ。

もし、巨額の保険を引き受けた場合に、資本が少ないとどのような問題が起きるか考えてみよう。

保険金は直ぐに支払うことで役に立つ点に注目する。保険会社は、借金をして保険金を支払うことはない点に留意すること。